



トヨタ財団レポート

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT

ISSN 0389-1984

No.70

163-04 東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル37F
Phone: 03-3344-1701~3
Fax: 03-3342-6911

Dec.1994

ベトナム古代王朝「チャンパ王国の遺跡と文化展」を各地で開催

「海のシルクロード——チャンパ王国の遺跡と文化展」をトヨタ財団等の主催で開催しました。9月13日～18日は名古屋市・愛知芸術文化センター、9月27日～10月7日は福岡市・市役所市民ロビー、10月14日～20日は広島市・メルパルク広島で、各会場とも多数の入場者でにぎわいました。

また、それぞれの地域とベトナムとの関係や文化遺産に関するシンポジウムも同時開催し、大勢の方々にご参加いただきました。

チャンパ王国は、カンボジアのアンコール、インドネシアのポロブドゥールと並ぶ、東南アジアの三大王朝の一つで、2世紀末、チャム族がベトナム中部から南部にかけて建国し、中継貿易によって栄えましたが、中国から独立したベトナムの南進によって17世紀に滅亡して、チャム族は少数民族になってしまいました。

彼等が築いた文化は、ヒンドゥー教や仏教の信仰に基づく格調の高いもので、とりわけ建築や美術に優れた作品を数多く残しています。しかし、王国の滅亡後ベトナムが長く戦乱状態にあったことなどにより、世界にほとんど知られることもなく、

荒れるに任せているのが現状です。

今回トヨタ財団では、この古代チャンパ王国の遺跡の世界初の本格的な紹介と救済協力を訴えるための全国巡回展を企画しました。名古屋、福岡、広島に続いて、来年1月には東京で、2月には大阪で開催する予定にしております（日程についてはP14を参照のこと）。

▼展示会の様子



会場では、約100枚の写真・説明パネル、2つの遺跡模型、チャム族の民族衣装や織物、はた織り機などを中心に展示し、遺跡保存のための募金もおこなっております。

この機会に是非古代チャンパ王国の文化に触れ、世界的文化遺産の保存にご協力いただければ幸いです。（川島記）

第72回理事会を開催

—平成6年度の助成対象を決定—

去る9月22日(木)、当財団の第72回理事会が都内にて開催され、1994(平成6)年度の各助成対象に関する審議と決定が行われた。その結果、研究助成、市民活動助成(第1期)、国際助成、「隣プロ」翻訳出版促進助成など合計259件、総額にして3億8,143万円の助成が決定された。主な助成対象については、4ページ以下の一覧表を参照されたい。

トヨタ財団助成金贈呈式を国連大学にて開催

去る10月20日(木)午後1時30分より東京・渋谷の国際連合大学において、標記贈呈式を開催した。今回の参加者は、従来のように助成対象者、財団関係者だけでなく広く一般参加者にも呼び掛けた結果、200名をこえる盛況であった。

(豊田英二名誉会長の挨拶文はP2に掲載)

また、財団設立20周年を記念して京都大学名誉教授の日高敏隆先生による記念講演も行われた。

2

「トヨタ財団設立20周年を記念して」

3

「鷹栖ケースマネジメント国際シンポジウム」

4

助成対象一覧リスト

13

新刊紹介「UP TO DATE」

トヨタ財団設立20周年を記念して

トヨタ財団名誉会長 豊田 英二

このたび、選考をおえました。

本年度の助成は、合計、259件、3億8千200万円でございます。この結果、本年度の助成総額は約4億6千500万円になる見込みであります。財団発足以来の累計では、約3,761件、91億6千600万円となります。

これらの選考経過につきましては、後程各プログラム選考委員長より詳しくご報告申しあげることといたします。

さてトヨタ財団では、創立当初より、現代社会の抱える課題を中心に、多目的財団として国の内外において活動して参りました。また、出損元のトヨタ自動車からも独立して自主性を持った運営を行って参りました。

お蔭様をもちまして、国の内外からトヨタ財団の活動につきまして、ある程度の評価を頂いてると自負している次第であります。

しかし、冷戦終結後の世界は激しく変動しており、国の内外において解決すべき問題は山積しております。

しかも、どの問題を取り上げてみても、従来我々が経験してきた問題とはその質もスケールも全く異なり、また、問題同志が相互に複雑に絡み合っているのであります。

このような状況の中で、研究者や民間の活動家達の創造性に溢れた調査・研究やバイタリティある活動を通して、人類社会の未来へのビジョンが提示されることが今こそ期待されているのであります。

トヨタ財団と致しましても、従来の枠組みに安住することなく、新たなるパラダイム構築に向けての活動を充分支援出来る体制を取ることが急務であると考えております。

このため、トヨタ財団のプログラムについても20周年を期して見直しを進めて参りましたが、特に大きな変更を行いました研究助成については、若干御説明致したいと思います。

本年より研究助成のテーマを「多元価値社会の創造」とし、その下に、関心領域として

1. 多様な文化の相互理解と共存
2. 新しい社会システムの提言
3. 地域環境と人間生存の可能性
4. 市民社会の時代の科学・技術

の4つを設定致しました。

また、選考委員会も従来の2つの委員会から4つの委員会とし、より専門化した体制を取りました。

このことも財団自身の問題意識をより明確に打ち出すことを通して、社会に於ける財団の果たす役割を明らかにしていきたいという願いに基づくものであります。この結果、応募の面でも明らかに変化が見られ、従来にもまして本格的な研究調査の応募を多数頂きました。

また、遅ればせながら本年より英文での申請を受付けることに致しましたところ、世界の各地より例年に倍する応募を頂きました。このことは財団自身の取組み姿勢の変化に対して明らかな反応が見られたものと考えられるのであります。

本日の贈呈式も、助成をお受けになる方と財団関係の方々にとどまらず、広く市民の皆様にお越し頂きました。このことも20周年を期に、トヨタ財団の活動をより開かれたものとしていきたいという願いのあらわれであります。

皆様のご指導・ご支援の下、たゆみなく前進への努力を続けることが大切であることを改めて肝に銘じておきたいと思えます。

最近、日本の社会 ▼贈呈式での豊田会長

においてもフィランソロピイーの重要性についての認識が深まり始めたことは慶びばしい限りですが、それだけに民間財団がフィランソロピイーの重要な担い手である



あることを広く社会に理解してもらう為にも財団自身の革新への不断の努力が極めて大切なのであります。

本日は助成をお受けになる皆様、おめでとうございます。

選考委員の先生方、暑い夏の最中に長時間選考のための議論をして頂きありがとうございました。

これをもちまして私のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

注：本文は、第20回トヨタ財団贈呈式（1994年10月20日、於：国連大学（東京・渋谷））における豊田会長「挨拶」からの抜粋です。

「鷹栖ケースマネジメント国際シンポジウム」 を終えて

札幌大学 高橋 誠一

9月13日(火)、14日(水)に北海道鷹栖町で「鷹栖ケースマネジメント国際シンポジウム」を開催した。シンポジストとして海外から、イギリス、スウェーデン、アメリカの3名、国内から5名の研究者や実践家が参加した。

シンポジウムが開催された両日、人口7000人の農業の町には、道内だけでなく全国から在宅福祉やケースマネジメントに関心を持つ研究者や、現場の福祉や医療関係者が450人ほど集まった。

実は、今回のシンポジウムは北海道ケースマネジメント研究会がトヨタ財団の助成を受けて4年間にわたって行ってきた研究の総まとめの意味も持っていた。

●ケースマネジメントとは

さて、ケースマネジメントとは何であろうか、と思われた方もいるであろう。今、日本は高齢化が急速に進んでいる。そして、高齢化に対して様々な社会的対応が迫られているが、そのなかでも大きな問題は、虚弱な高齢者の介護の問題である。

虚弱な高齢者は医療とサービスを多く必要とする。このことはすぐに理解でき



▲シンポジストとの記念撮影

ることであるが、さらに重要なことがある。それは医療と福祉が連携をとって高齢者介護の問題を解決していかなければならないということである。このことは実際にこの問題に直面した本人や家族でなければなかなかわからないし、医療や福祉の専門家のなかでも理解はされても実際には連携がほとんど行われていないというのが現状である。

ケースマネジメントはこの連携の具体的なシステムとしてアメリカやイギリスで開発されてきた。

●北海道ケースマネジメント研究会

われわれの研究会は、日本で一部の研究者が関心を示し始めた1989年に鷹栖町をフィールドにケースマネジメントが日本で可能であるのかどうか、どのようなケースマネジメントであるならば可能なのかということの研究を始めた。町の全面的な協力と財団の援助がなかったならこのような先駆的研究はできなかったと言える。

そういうわけで、今回のシンポジウムはトヨタ財団の勧めもあり敢えて研究の場であった鷹栖町で開催することにした。とは言うものの、研究会は札幌にあり鷹栖町とは150kmほど離れているので、シンポジウムの実行委員も2つの地域に分かれてしまい、準備段階では地元にかかなりの負担をしいることになってしまった。

また、当日は役場職員の半数を裏方に動員して下さり、役場の機能をストップさせてしまったのではないかとと思われるほどの協力をいただいた。

●研究成果と今後の課題

研究そのものは、1993年の10月に終了している。いくつかの成果の中で、恐らく最大のものは、われわれ研究会と町が始めたケースマネジメントによる高齢者の在宅支援がその後も継続しておこなわれているということである。このような介入実験の場合、研究が終わればとぎれてしまうことが多いのである。よいと言われるものでも続いていかないことには本物にならない。少なくとも鷹栖町のようにやれば日本でもケースマネジメントは可能であると言える。

鷹栖町だけでなく全国の市町村でこのような試みができないのか。この問いを全国へ向けて鷹栖町から発信したというのが今回のシンポジウムであった。ケースマネジメントは鷹栖町だからできたというのではなく、どこでもできるものである。これはわれわれ研究会が明らかにしなければならないことのひとつである。

このメッセージを微弱ながら精一杯の出力で発信した。少なくとも今回のシンポジウムに参加して下さった方々はかなり感度のいい受信機でそれを聞いてくださったのではないかと信じている。

〈追記〉

なお、今回のシンポジウムでの報告を中心に北海道でのケースマネジメントの事例も紹介した「ケースマネジメントのすすめーみんなで支える老人福祉ー」と題した本を出版する予定とのこと。

A5版、230ページ程度で価格は消費税込みで2,000円(郵送料別)。

詳細については、毎日新聞北海道支社総合企画部(〒060 札幌市中央区北4条西6丁目 TEL:011-251-3551(FAX共))まで。

1994年度 研究助成対象一覧

研究助成 A [27件:4,000万円]

注 研究題目末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。
助成金額下の()は、助成期間を示す。無記入は1年間。

課題1. 多様な文化の相互理解と共存

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
1	日本近世における書籍所有の意味を考える－幕府による書籍の探索・収集・史書編纂の意図とその影響を中心に－	藤實久美子	日本学術振興会	140
2	民族考古学的研究による東ポリネシア北部クック諸島の伝統文化の復元－祭祀遺跡にこめられた多様な意味の解釈を通して－	山口 徹	オークランド大学人類学部	150
3	カリブ海地域における国民芸術の成立－ナショナルミュージアムの整備と近代美術教育制度の確立－	石川麻矢子	東京大学大学院総合文化研究科	150
4	ホンジュラスの古代文化クロスロード地域における中心部(マヤ文化)と周縁部(非マヤ諸文化)間の考古学的比較研究－周縁社会の視点からの古代マヤ文明発展・衰退過程の再構成－	中村 誠一	ホンジュラス・コパン協会	160
5	日本占領期における在日朝鮮人の教育問題に関する考察－日本政府とGHQの対在日朝鮮人教育政策を中心に－	金 太 基	一橋大学大学院法学研究科	120
6	中国四川省六江流域に居住するチベット系少数民族語の記述研究	池田 巧	山梨県立女子短期大学	160
7	日本におけるまちづくりと地方分権の接点を探る実証的研究－住民参加による伝統環境保全と地域社会のアイデンティティ形成過程－	林 慶 澤	東京大学大学院総合文化研究科	100
8	西アフリカ移民都市における宗教の社会的役割に関する文化人類学的研究－コート・ジボアールの日系新宗教受容にみるエスニシティの持続と変化を中心として－ (継2)	櫻尾 直樹	東京大学大学院人文科学研究科	160
9	中国華南少数民族の公益性の文化人類学的研究－トン族の民間公益活動と公共施設の分析から－	兼重 努	中国・広西壮族自治区社会科学学院	160
10	途上国におけるホテルの成立とその都市論的意義に関する研究	毛谷村英治	京都大学工学部	120
11	植民地下朝鮮における公娼制度研究 (継2)	山下 英愛	韓国東国大学校文科大学日語日文学科	170
12	満州に於ける金日成の抗日武装闘争－朝鮮民主主義人民共和国成立の歴史的起源－	韓 洪 九	ワシントン大学史学科	160
13	アマゾン河下流における民間医療パジェランサの医療人類学的研究－映像による治療者・被治療者の相互関係の分析を中心として－ (継2)	松岡 秀明	カリフォルニア大学バークレー校	150
14	ベトナムの少数民族・チャム族のエスニック・アイデンティティについて－帰属意識を形成しているものは何か－	中村 理恵	ワシントン州立大学人類学部	130

課題2. 新しい社会システムの提案－市民社会の構築をめざして－

15	子どものケアと喪失経験が母親の人生観、生き方に及ぼす影響－日米間の比較研究－	戈木 滋子	カリフォルニア大学サンタバーバラ校看護学部	140
----	--	-------	-----------------------	-----

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (万円)
16	開発途上国の伝統的小規模産業における雇用メカニズムと経済協力	鳥飼 行博	東海大学教養学部生活学科	150
17	人権条約上の国家の義務-条約解釈における「人権」概念の規範的意義-	申 恵 手	東京大学法学部政治学研究科	100
18	国際公正労働基準と世界経済の持続可能な成長-とくに通商・貿易交渉ルールとしての労働者保護の問題を中心に-	米津 孝司	日本学術振興会	150
19	フィリピン社会運動の新しい展開についての研究-アジア途上国民主化に関する一事例研究-	太田 和宏	一橋大学大学院社会学研究科	140
20	NGOによる「参加型開発」・「民主化」促進活動と政府機関の関係に関する研究-CIDA資金によるインドネシア・フィリピンにおける活動の事例	高柳 彰夫	北九州大学外国語学部	150
21	Institutionally Induced Health Care Policy: Japan and the United States	Wikitaka Masuyama	The University of Michigan	100

課題3. これからの地球環境と人間生存の可能性

22	チェルノブイリ原発事故被災地における住民の内部被曝の防護に関する研究-セシウム137 (137Cs) の食物から人体への移行に関する疫学的研究-	鷹野 和美	信州大学大学院医学研究科	200
23	Exploring Indigenuos Natural Products for Resistance management / Control of Storage Pests of Rice and Corn	Owusu, Ebenezer Oduro	愛媛大学	190
24	中国における食生活の変化と主要農産物国内需要の長期動向に関する研究-日本との比較研究を通して-	沈 金 虎	南九州大学園芸学部	160
25	大規模火山噴火によるマグマ中の揮発性成分(特にハロゲン族元素)の大気への影響-シンクロトロンXRFを用いたガラス包有物の組成、濃度分析からの考察	隅田 まり	キール大学海洋科学センター	160

課題4. 市民社会の時代の科学・技術

26	スリランカの古書にみる伝統医学の現代社会に果たす役割についての医療人類学的研究-民族・宗教の異なる地域調査を主として	樋口まち子	University of Colombo	170
27	規模の経済性に影響を及ぼす要因の実証分析-東アジア型持続可能な農業発展モデルの構築に向けて-	胡 柏	南九州大学園芸学部	160

研究助成 B [24件: 1億4,270万円]

課題1. 多様な文化の相互理解と共存

28	New Strategies For Curbing Ethic and Religious Conflict in Nigeria	Okafor Fidelis Uzochukwu 他10名	University of Nigeria	300
----	--	----------------------------------	-----------------------	-----

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (万円)
29	環日本海地域における狩猟文化の基本構造とその変容に関する国際共同研究	加藤 晋平 他19名	国学院大学文学部	950 (2年)
30	カンボジア村落社会再建過程における伝統文化の役割に関する国際共同研究-仏教、教育、親族組織の果たす機能を中心に	小野澤正喜 他10名	筑波大学歴史人類学系	900 (2年)
31	社会が多民族化していく中での社会精神医学的ストレスの解明と、よりストレスの少ない多民族共住社会を可能にするための精神医学的ケアのモデルづくりへの提言(移民、難民を多く受け入れている国の事例をもとに)	桑山 紀彦 他6名	山形大学医学部	520 (2年)
32	分裂と統合のなかの人口移動と情報ネットワーク-難民・労働力・言語をめぐる地中海文化圏および環太平洋文化圏の比較研究-	本村 凌二 他10名	東京大学教養学部	700 (2年)
33	アジア・太平洋地域の倫理意識に関する国際比較研究:医療・保健事業にかかわる倫理的判断をめぐる	大井 玄 他7名	東京大学大学院医学系研究科	500 (2年)
34	日本の小・中学校における外国人子女の適応に関する調査研究	高橋 正夫 他5名	新潟大学教育学部	410 (2年)
35	ヴェトナム雅楽(ニャニャク)の過去・現在・未来に関する総合的研究-演奏慣習の歴史的復元および文脈変換による新しい保存形態に焦点をあてて	徳丸 吉彦 他13名	お茶の水女子大学文教育学部	790

課題2. 新しい社会システムの提案-市民社会の構築をめざして-

36	ロシアの市場経済移行と市民社会の条件-日本からの知的支援の可能性を含めて	Serguei Braguinski 他2名	横浜市立大学商学部	700 (2年)
37	21世紀へ向う華南経済圏と日本-社会主義と資本主義が共存する多元価値的地域社会とその対日関係	金 泓 汎 他11名	中国福建社会科学院亚太研究所	800 (2年)
38	「在韓日本人妻」に関する研究-日韓比較をとおしてみたマイノリティの文化と福祉-	中村 律子 他10名	中京大学社会学部	400 (2年)
39	長野県小諸地区における外国人支援ネットワークの形成に関するアクション・リサーチ	田中 望 他12名	大阪大学留学生センター	300
40	ポスト・アパルトヘイトの南アフリカ共和国における社会経済変動と持続的開発の展望-途上国開発のモデルとしての民主化とノン・レイシャル戦略の普遍的価値の探求-	佐々木 建 他17名	大阪市立大学商学部	400
41	タイを事例とした「人権調和型発展」の展望に関する総合的研究-ジェンダー化された労働の社会的経済的構造分析を中心に-	羽後 静子 他12名	東アジア女性フォーラム	600 (2年)
42	Managing Difference in Multicultural Societies: Australia and Japan	Morris-Suzuki, Tessa 他3名	Research School of Pacific and Asia	600 (2年)
43	Pluralism in Community Development Practices: Can New Information Technology Build/Maintain a Civil Society?	John T. Pierce 他3名	Simon Fraser University	400 (2年)

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

課題3. これからの地球環境と人間生存の可能性

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (万円)
44	「アジア環境白書」づくりーアジアにおける公害・環境問題に関する国際共同研究ー	秋山 紀子 他13名	青山学院女子短期大学	1000 (2年)
45	底生生物の生物活性を利用した海底のヘドロ浄化法の開発に関する基礎的検討	門谷 茂 他3名	香川大学農学部	400
46	永久凍土層から発掘された冷凍マンモスの体組織および染色体DNAの解析によるマンモスの機能の解析絶滅のメカニズムの究明	鈴木 直樹 他4名	東京慈恵会医科大学ME研究室	480
47	アフリカゾウと地域住民との「新たな」共存を図る広義の緩衝地帯に関する具体的・試行的研究	小原 秀雄 他14名	女子栄養大学栄養学部	600 (2年)
48	生存のための農業への転換に関する理論的・実践的研究	中村 修 他7名	九州大学農学部	500 (2年)
49	ロシアの炭化水素地層における微生物生態の研究	石本 真 他22名	東京家政学院大学家政学部	620 (2年)

課題4. 市民社会の時代の科学・技術

50	日本における科学技術の近代化と国際化のメカニズムー一次史料の体系化と分析による総合的研究ー	鎌谷 親善 他6名	東洋大学経営学部	400
51	医療に対する患者の期待と満足度の測定およびその実地応用に関する研究 (継3)	岩崎 榮 他6名	日本医科大学医療管理学教室	1000 (2年)

1994年度 市民活動助成対象一覧

注 テーマ末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。

No	テーマ	代表者名	代表者所属	助成金額 (万円)
1	内なる国際化がすすむ地における、違いを認め合い共生をめざす地域づくり	沼尾 実 他11名	外国人児童生徒保護者交流会	180
2	市民参加を促進する環境・開発教育ネットワークづくり	森 良 他27名	エコ・コミュニケーションセンター	190
3	鹿児島・甲突川水害後の地域づくりー石橋を生かす防災文化の創造ー	上野 敏孝 他8名	かごしま防災文化フォーラム	190
4	アジアにおける砒素汚染のネットワークづくり	堀田 宣之 他8名	アジア砒素汚染ネットワーク	200
5	盲ろう者による実態調査とピア・カウンセリングの試みー当事者が行う生活実態とニーズの把握ー	福島 智 他8名	東京盲ろう者友の会	170
6	学習障害(LD)児を共に支えるための教育ネットワークづくりと市民援助のあり方を求めてー実践指導者養成のためのワークショップの開催等ー	植木きよみ 他8名	飛翔の会	200
7	「新潟県上越地域の水道水源を保護する活動」に関する記録の作成	松原 靖政 他24名	上越市の水道水源を保護する会	190
8	インドネシアのNGO調査ー日本の開発協力への参加のためにー(継2)	津留 歴子 他9名	日本インドネシアNGOネットワーク	180
9	日本のHIV陽性者が必要とする情報の収集と提供 (継2)	井上 洋士 他10名	SHIP	200
市民活動助成合計		9 件		1,700

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

1994年度 国際助成対象一覧

注 研究題目末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。

カンボジア [5件: 65,300ドル]

No	研究題目	研究者名	研究者所属	助成金額 (ドル)
1	両世界大戦間(1919年-1940年)のカンボジア社会の発展(継2)	S. サムナン	プノンベン大学歴史学部 学部長	5,200
2	音楽とクメール人の生活(継3)	K. ナロム	芸術大学 教員	13,600
3	クメールの天上芸術の保存と再活性化のための研究	C. ポン	クメール文化研究所 所長	28,000
4	伝統的アンコール都市計画とカンボジア現代都市計画の比較と批判的研究	V. モリヴァン	国家文化高等評議会 議長	9,000
5	クメールの首都概念の研究	N. ナラン	文化芸術庁 長官	9,500

インドネシア [18件: 199,900ドル]

6	『ジャワの村落盗賊: 1850年-1942年』の研究と出版(継4)	スハルトノ	ガジャマダ大学文学部 歴史学科 講師	5,700
7	ビマ文化の保存: ビマ年代記、テキストおよび口承伝統の翻字、翻訳と研究(継3)	ヘリウス S.	バンドゥン教育大学社会 歴史学科 講師	8,300
8	南スマトラの鉱業史: 1890年-1940年の研究(継3)	バンバン P.	ガジャマダ大学文学部 歴史学科 講師	7,100
9	クトブラック: 現在ジャワにおける過去の政治に関する研究(継2)	ブディ S.	リアリノ研究所 所長	6,300
10	スダ文化百科事典編纂のための研究(継3)	アイップ R.	作家	19,100
11	現代ワヤン芝居: ジャワにおけるその発展と分布に関する研究(継2)	ウマル K.	ガジャマダ大学文化研究セン ター所長・教授	15,000
12	「プサントレンの指導者および卒業生: アチェにおける伝統と近代のはざま」の研究(継2)	ムハマド G. I.	ジャクアラ大学教育学部 歴史学科 講師	4,900
13	歴史ジャーナル『歴史: 思想、再構築、認識』の発行(継3)	イブヌ Q.	インドネシア科学院文化社会 研究センター	3,800
14	マルク諸島タリアブ島のマゲイ族の農耕(バセル)文化に関する研究(継2)	エリサ R.	パティムラ大学教育学部 講師	5,000
15	スダ貴族メナックに対する西欧教育のインパクトに関する研究(継2)	ロフィアティ W.	バンドゥン教育大学社会教育 学部歴史学科 講師	5,000
16	インドネシア映画のカタログ作成のための研究	J. B. クリスタン	コンパス新聞 編集者委員長	15,900
17	社会正義と環境に配慮した漁村をめざした社会・文化変革に関する研究	エイマル B. D.	ハサヌディン大学農林学部農 学社会経済学部 助教授	4,400
18	1950年-1993年のスンバワにおけるバリ人移住史研究	I. B. G. ブルハタ	ウダヤナ大学文学部歴史学科 講師	8,600
19	消費社会の子供達: インドネシア・ジョクジャカルタの若者達の変化するライフスタイルとアイデンティティに関する研究	イルワン A.	ガジャマダ大学文学部 文化人類学科 講師	6,700
20	ジョクジャカルタスタイル古典舞踊の研究とビデオ収録	フレッド W.	マルダワ文化舞踊教育財団研 究記録部 委員長	26,400
21	東カリマンタンのダヤク社会への木材産業のインパクト	ジュニ T.	A K A T I G A財団 専務理事	11,400
22	ジョクジャカルタ特別地区におけるロームシャ体験の記録	P. J. スワルノ	サナタ・ダルマ大学インドネ シア歴史研究記録センター	7,400
23	ワークショップ『民族革命野研究、回想および考察』の開催とその成果の歴史ジャーナル『歴史: 思想、再構築、認識』特集号としての出版	イブヌ Q.	インドネシア科学院社会文化 センター 研究員	38,900

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

ラオス [3件、 26,900 ドル]

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (ドル)
24	ラム・シタンドン歌謡の研究(継3)	トンカム O.	情報文化省文学局 局長	11,300
25	ラオス美術史の研究(継3)	ブンヘン B.	博物館考古学局 局長補佐	8,000
26	ラオ慣習法員葉文献の研究(継4)	サムリット B.	情報文化省文学局 アドバイザー	7,600

マレーシア [8件、 61,300 ドル]

27	マレーシア軍人エリートの高頭に関する研究(継2)	ナザン H.	マレーシア国立大学教養社会科学部歴史学科 準教授	9,000
28	技術変化と近代の文脈からみたマレー半島の先住民の物質文化の研究	ワジュール J. K.	マレーシア科学大学女性人材研究ユニット 教授	8,600
29	政治家トゥンク・アブドゥル・ラーマンの研究	ラムラー A.	マラヤ大学教養社会科学部歴史学科 準教授	6,700
30	立憲君主政治の研究: タイの場合	コブクワ S. P.	マレーシア国立大学教養社会科学部歴史学科 準教授	11,300
31	田植えと船および家屋の建築にまつわるマレーの儀礼の記録	ノーラジット b.	マラヤ大学マレー研究学科 準教授	3,700
32	サバーの開発: 1900年-1990年の日本経済活動に関する研究	サビハー O.	マレーシア国民大学教養社会科学部歴史学科 準教授	5,300
33	モチーフ、素材および織り方: サバーの固有織物とその装飾技術に対するフィリピンの影響に関する研究	パトリシア R.	サバー博物館 館長	5,000
34	マレーシアにおけるイスラム教の表現に関する研究	シャリファ Z.	マレーシア国民大学教養社会科学部人類学社会学科 準教授	11,700

フィリピン [17件、 151,700 ドル]

35	スペイン植民地時代に関する未出版の古文書の調査と研究(継6)	V. B. リクアナン	フィリピン歴史文化保存ナショナル・トラスト 副会長	20,600
36	フィリピン南部のモロの人々の土地利用の固有のパターンと国家政策の研究(継2)	M. L. フィアンザ	ミンダナオ州立大学社会科学・人文学部政治学科 助教授	4,500
37	フィリピン憲法の発展、1935年-1987年: 歴史と法的解釈の研究(継2)	J. G. ベルナス	アテネオ・デ・マニラ大学法学部 教授	6,900
38	ヴィサヤ3言語の文学・芸術用語辞書編纂のための研究(継2)	E. K. アルブーロ	サンカルロス大学セブアノ研究センター 研究員	6,800
39	モロとフィリピンのナショナリズム: 歴史学的研究(継2)	M. R. タワゴン	ミンダナオ州立大学歴史学科 教授	6,500
40	ラ・ウニオン: 州の成立の研究、1850年-1921年(継3)	A. O. メインパン	ニュー・エラ・カレッジ 教授	7,600
41	フィリピン人のディアスポラ: 移住とインドネシア北部への定住の研究(継2)	E. T. クリャマール	アテネオ・デ・マニラ大学政治学科 準教授	5,700
42	フィリピン研究のための固有の資料の研究(継4)	J. M. フランシスコ	アテネオ・デ・マニラ大学ロヨラ神学校 助教授	7,600
43	フィリピン諸語辞書編纂のための研究(継9)	E. コンスタンティーノ	フィリピン大学社会科学・哲学学部言語学科 教授	3,900
44	フィリピンの各言語による文学のピリピノ語への翻訳・出版のための研究(継4)	E. M. パチェコ	アテネオ・デ・マニラ大学出版会 所長	14,800
45	アルシーナ文献(ヴィサヤ地方についての歴史書)の調査と研究(継2)	R. B. ハヴェリャーナ	アテネオ・デ・マニラ大学文理学部コミュニケーション学	17,100
46	フィリピンにおけるイスラム法、民法、慣習法の岐路: モロの人々の法的苦境の研究	H. A. バラ	ミンダナオ州立大学シャリア法センター 準教授	8,400
47	マラナオ族固有の織物の起源と技巧の研究: バロッド(絞り染め)プロセスを中心として	C. B. アラウヤ	ミンダナオ州立大学社会科学・人文学部歴史学科 講師	7,800

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (ドル)
48	ブサカ（先祖伝来の家宝）：社会・文化および歴史的研究	B. J. カディル	ミンダナオ州立大学社会科学 ・人文学部歴史学科 準教授	3,300
49	フィリピンのミンダナオ島、スルー諸島、パラワン島のフィ リピン的な社会認識の比較研究	C. J. パス	フィリピン大学社会科学・哲 学学部言語学科 教授	18,400
50	口承伝承によるブキドノンの民族史の研究	M. M. ラオ	セントラル・ミンダナオ大学 文理学部社会科学科 教授	5,600
51	フィリピン、タウィータウィ、シブツ島のサマ人による伝統 的造船技術と文化の民俗学的研究	M. B. L. アブレラ	フィリピン大学社会科学・ 哲学学部歴史学科 助教授	6,200
タイ [6 件、104,400 ドル]				
52	アホム・ブランジ文献の研究（継3）	レイヌー W.	アユタヤ歴史研究センター 講師	28,800
53	タイ・ルー族の織物の比較研究（継3）	ソンサク P.	チェンマイ大学芸術文化セン ター 助教授	11,200
54	国際会議：アジアの過去の未来	ラチット B.	サイアム・ソサエティ 副会長	20,000
55	先史時代のタイ中部における銅の製造の発展と文化変容の 研究	スラポン N.	シンラパコン大学考古学部 考古学科 講師	16,700
56	アジアにおける経済と文化の変化が女性の生活に与える影響 の予備研究：タイとヴェトナム	ヴィラダ S.	チェンマイ大学社会学部女性 問題研究所 準教授	7,500
57	タード・イサン：東北タイのパゴダの研究	ウィロート S.	コンケン大学建築学部 副学部長	20,200
ヴェトナム [28 件、330,700ドル]				
58	フエの民間信仰の研究（継2）	T. D. ヴィン	フエ教育大学文学部 助教授	8,600
59	ブル語-ヴェトナム語-英語辞書作成のための言語学研究 （継2）	V. H. レ	フエ大学言語学科 学科長	8,600
60	古代チャンパ王朝の芸術と文明の研究（継2）	T. K. フオン	チャンパ彫刻博物館	35,500
61	ヴェトナムの少数民族チュ族の研究（継2）	N. V. マイン	フエ大学民族学科 講師	4,600
62	ヴェトナムの人文科学の先駆者グエン・ヴァン・フエンの 研究（継2）	N. D. ジェウ	ヴェトナム国立社会人文科学 センター社会科学出版局 局長	7,500
63	ヴェトナムのラグライ族の文化と社会の研究（継2）	P. X. ビエン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター ホーチミン市社会 科学研究所 助教授	10,800
64	村神に関する文書の保存と研究（継2）	L. V. トアン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 社会情報研究所 所長	15,000
65	17世紀から1975年までの南ヴェトナムの仏教の研究 （継2）	T. H. リエン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター ホーチミン市社会 科学研究所 研究員	4,000
66	ホーチミン市の女性労働者の雇用問題の実情と雇用創出の ためのいくつかの基本的方向性研究（継2）	B. T. K. クイ	ヴェトナム国立社会人文科学 センター ホーチミン市社会 科学研究所 教授	9,900
67	ヴェトナムのフモン族の研究（継3）	P. Q. ホアン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 民族学研究所 研究員	13,800
68	大学レベルの東南アジア研究の教授カリキュラムの研究 （継3）	P. D. ズオン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 東南アジア研究所 所長	11,000
69	ヴェトナムの伝統演劇、ハップイの研究（継3）	N. ロック	ホーチミン市大学文学・言語 学科 学科長	25,000
70	クアンナム・ダナン省ホイアンのサーフィン甕棺文化の 考古学研究（継3）	N. D. ミン	ホイアン史跡管理事務所 副所長	25,000
71	劇作者・演出家、グエン・ヒエン・ディンとクアンナム・ ダナン省の伝統演劇トゥオンの研究（継2）	H. H. ホック	クアンナム・ダナン省文化 情報局 部長	16,000
72	ヴェトナムのジャーナリズムの歴史の研究：1865年-1990年 （継3）	H. M. ドウック	ハノイ大学ジャーナリズム 学部 学部長	7,800

THE TOYOTA FOUNDATION REPORT No.70

No	研究 題 目	研 究 者 名	研 究 者 所 属	助成金額 (ドル)
73	ヴェトナムの地簿コレクションの研究(継3)	N. D. ダウ	ホーチミン市社会科学委員会 メンバー	23,000
74	ヴェトナム中国間国境貿易と北ヴェトナムの山地少数民族の社会経済、及び文化生活への影響の研究	N. M. ハン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 中国研究センター	13,300
75	ムオン族の葬儀儀礼モヴァイの研究	D. V. ルン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 文学研究所少数民 族文学部 部長	7,500
76	ムノン族の慣習法と神話の研究	N. D. ティン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 民俗学研究所 所長	9,000
77	ホアビン水力発電プラントの社会環境インパクトとその解決策に関する研究	N. Q. フン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 経済研究所 研究員	10,900
78	紅河デルタの省、県レベルの地名と境界の変化の研究	N. Q. アン	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 歴史研究所 研究員	4,000
79	ヴェトナムのストリート・チルドレンに関する調査研究	N. H. トゥイ	Vietnam Social Sciences Review誌 副編集長	6,200
80	クアンナム・ダナン省のカトゥ少数民族の家屋と装飾芸術の研究	N. ニョン	クアンナム・ダナン博物館 館長	5,000
81	ミン・マン帝の農業振興政策に関する研究	M. K. ウン	フエ歴史的建造物保存セン ター 研究員	6,700
82	阮朝の宮廷文書の研究	D. V. カム	ヴェトナム国立公文書館 館長代理	19,200
83	ザライ語ヴェトナム語およびヴェトナム語ザライ語辞書作成のための研究	R. デル	ザライ省文化情報スポーツ部 研究員	5,700
84	ヴェトナムの亭についての研究	N. V. ク	ヴェトナム国立社会人文科学 センター 国際協力部 副部長	11,500
85	タイビン省の三つの古代チェオ演劇の復元のための研究	N. シン	音楽学 民族舞踊、舞踏技法 研究所 所長	5,600

マレーシア東南アジア研究奨励助成 [9 件、 40,600 ドル]

86	"ドミサイル" から"ドメイン" へ: 独立後のフィリピン、マレーシアの現代文学の代表作品の形成に関する研究(継3)	L. J. マラリ	マレーシア国立大学ムラユ 言語文学文化研究所 博士課程	6,300
87	先史時代のニア-陶器の起源とその東南アジアにおける位置に関する研究(継2)	ステファン C. M.	マレーシア科学大学 博士課程	4,000
88	レゴン峡谷の旧石器遺跡とその東南アジア考古学への貢献に関する研究(継2)	ムハマッド・モフタル	マレーシア科学大学 修士課程	3,200
89	感情の文化人類学的分類: マレー人とパリのイスラム教徒の比較研究(継2)	ザイダー M.	マレーシア国民大学 修士課程	4,000
90	1900年から1942年のマレーシアの英字新聞からみた植民地支配の形態に関する研究(継2)	V. T. T. グェット	マラヤ大学東南アジア研究学 科 修士課程	6,300
91	異教徒少数民族のシステムへの吸収: 南タイのマレー・ムスリムの事例研究	スリア S.	マレーシア科学大学 修士課程	2,200
92	クラビットの系図に関する研究	ポリン B.	マレーシア国民大学 博士課程	3,900
93	タレンボン: 西スマトラのミナンカバウ族とその移住先のマレーシア社会の音楽に関する研究	ユヌス b. M.	マラヤ大学 修士課程	6,400
94	グエン朝によるヴェトナム朝貢制度: 1558年-1819年に関する研究	ダニー W.	マラヤ大学 博士課程	4,300

国際助成小計

94 件

980,800

95 158	インドネシア若手研究者奨励研究助成(対象一覧は省略)	64 件		125,400
-----------	----------------------------	------	--	---------

国際助成合計

158 件

1,106,200

1994年度 『隣人をよく知ろう』プログラム助成対象一覧

「翻訳出版促進助成」日本向け [9 件 : 2,011万円]

No	日本語仮題名(国名)	訳者名	出版社名	助成金額 (万円)
1	ウムラーオ・ジャーン(ラクナウの娼妓) (インド、パキスタン)	麻田 豊	平凡社	252
2	ヴァーキヤ・パディーヤーことばの哲学-(インド)	赤松 明彦	平凡社	308
3	ハン・トゥア物語(マレーシア)	小野沢 純	平凡社	377
4	ベトナム-王国から革命へ(ベトナム)	白石 昌也	平凡社	308
5	捕囚(インド)	高橋 明	めこん	153
6	アンコール遺跡(カンボジア)	今川 幸雄	めこん	97
7	チー・フェオ-ナム・カオ作品集より(ベトナム)	富田 健次	穂高書店	168
8	住宅からみたシンガポール社会史(シンガポール)	泉田 英雄	同文館出版	208
9	パサイ諸王史(マレーシア)	野村 亨	平凡社	140

「翻訳出版促進助成」アジア相互間 [14 件 : 116,600ドル] 注 プロジェクト名末尾の継2(3)は、継続2年目(3)年目を示す。

No	プロジェクト名	代表者名	代表者所属	助成金額 (ドル)
1	<i>The Japanese Experience of Economic Reform</i> のヴェトナム語への翻訳と出版(継2)	L. V. サン	ヴェトナム・アジア太平洋 経済センター	9,200
	<i>Development Challenges in Asia and the Pacific in the 1990s</i> のヴェトナム語への翻訳と出版(継2)			6,100
2	<i>The Cambridge Encyclopedia of Japan</i> のヴェトナム語への翻訳と出版	D. P. ヒエップ	国立社会人文科学センター 日本研究センター 所長	12,600
3	南アジア文学5作品のネパール語、ネワール語への翻訳と出版(継4)	T. R. カンサカール	文学財団 理事長	4,900
4	<i>No Harvest But A Thorn</i> のベンガル語への翻訳と出版(継5)	F. ラッビ	アフメッド記念財団 専務理事	3,200
5	<i>A History of Japan Vol. 3</i> のヴェトナム語への翻訳と出版(継8)	N. D. ジェウ	国立社会人文科学センター 社会科学出版局 局長	10,600
6	<i>Confucianism and Modern China</i> のヴェトナム語への翻訳と出版	N. H. クイ	国立社会人文科学センター 中国研究センター 所長	4,500
7	<i>Norwegian Wood 1</i> (『ノルウェーの森』第1巻)のヴェトナム語への翻訳と出版(継2)	P. レ	国立社会人文科学センター 文学研究所 所長	7,000
8	<i>A History of Southeast Asia</i> のヴェトナム語への翻訳と出版	N. P. ビン	国際関係研究所東南アジア 部 部長	13,500
9	<i>Culture and Management in Japan</i> のウルドゥ語への翻訳と出版(継4)	N. カーン	マシヤル財団 事務局長	4,900
	<i>The Sound of the Mountain</i> (『山の音』)のウルドゥ語への翻訳と出版(継4)			5,100
	<i>Twenty Four Eyes</i> (『二十四の瞳』)のウルドゥ語への翻訳と出版(継4)			5,300
	<i>Rim of Fire</i> のウルドゥ語への翻訳と出版(継4)			4,800
10	<i>Barefoot Gen - A Cartoon Story of Hiroshima</i> (『はだしのゲン』)のインドネシア語への翻訳と出版(継	モフタル L.	オボール財団 理事長	6,300
11	<i>Snow Country</i> (『雪国』)のヴェトナム語への翻訳と出版	N. キエン	ヴェトナム作家協会出版社 所長	3,500
12	<i>Ramayana</i> のインドネシア語への翻訳と出版(継3)	アフマド R.	ドゥニア・プスタカ・ジャ ヤ社長	8,100
13	<i>Press Systems in SAARC</i> のヒンディ語への翻訳と出版	V. S. グプタ	アジア・マスコミュニケーション ション情報研究センター	1,500
	<i>Role of Media in a National Crisis</i> のヒンディ語への翻訳と出版			1,500
14	<i>Tsuru no Ongaeshi</i> (『鶴の恩返し』)絵本のシンハラ語への翻訳と出版(継8)	D. A. ラジャカルナ	日本文学翻訳委員会 委員長	4,000

新刊紹介

『アマチュア実践福祉録』

こちら“ちくま”
筑摩工芸研究所・編
現代書館・刊('94.9)
A5判 190頁、1,545円(税込)

ここに、ひとつの会則がある。いわく、「ちくま福祉会会則」。これによると同会は、社会的不利・不足のある人（障害者）の生活、環境をととのえ、社会的に平常の生活を営めるよう援助することを目的とする。そして、その目的を推進するため、次の事業を行う。①ちくま共同作業所（授産事業）の運営。②筑摩工芸研究所（福祉工場）への支援。③援護事業の拡大、推進。④ボランティア活動への参加、推進。⑤障害者の職域拡大と職種の研究、開発。

これが、全国的にも有名なあの新井俊雄氏を代表とする「筑摩工芸研究所」（長野県松本市）の支援組織の会則である。

「へ～え。こんな会や会則があったんだ！」と、ちょっぴり驚き、そして苦笑いなどする関係者も多かろう。それほど、“ちくま”はバラエティに富んだ様々な活動や事業を、旧来の“福祉まみれ”の発想を打ち破る破天荒な新井氏独自のやり方で、次々と、しかもいとも簡単な形で起こし、且つ、見せてきたのである。

それは、1981年の筑摩工芸研究所（ちくま共同作業所）の設立を皮切りに、「ちくまの店」「ちくまリサイクルセンター」「パン工房」「石けん



工場」「リサイクル倉庫」「公民館喫茶“ゆんたあく”」「ちくま生活寮」と結実してきた。この一連の過程には、「やる気になりや、誰だってできるんだ」という彼の

気迫と気概に満ちた姿勢を感じ取ることができ。地域福祉のあり方がようやく真剣に検討され出した昨今、ぜひとも参考としたい事例がここにはある。

(G.W.)

『日本植民地と文化変容』

—韓国・巨文島—

崔 吉城・編著
御茶ノ水書房・刊('94.5)
変形判 380頁、8,446円(税込)

韓国では、近年日帝植民地史の発掘が盛んに行われているが、主に反日的、独立的なものである。これは韓国において、解放後の国造り過程にて自然に強まってきた民族主義が、近代化の急テンポなる発展にしたがってより強くなっていることによるであろう。例えば、独立記念館が拳闘的に建てられたのもその一つの表れである。

そして、日帝植民地時代の反日、独立運動の勢力が今日の解放後、政府成立過程や社会体制確立の基礎になっているのは当然のなりゆきであろう。いま、日帝植民地時代の資料が発掘され出版されているが、それらの資料については全体的には否定的な取扱いが目立っている。確かに、植民地そのものは歴史的には否定的なものではある。しかし、実際に韓国発展の上では大きく機能したという考え方も一方ではある。

特に、経済的な面から近代化において効果的な役割を担ったという見方がある。また、植民地統治については肯定的な意見も少なくはない。肯定的であれ否定的であれ、いづれにせよ影響があったことは事実である。この事実を認めて実証的



な立場から見た人類学的研究はほとんどない。

本書では、韓国・巨文島における文化変容を植民地統治の脈絡から離れて植民地的な立場からのアプローチを試みている。歴史的事実を認めて、それを客観的に分析してみることも必要であり、従来の反日、独立的な研究をも含めて肯定的、あるいは否定的な立場から総合的、全体的にみようというものである。

なお、本書の研究内容の一部はトヨタ財団研究助成による。(K.T.)

『「農」はいつでもワンダーランド』

ユギ・ファーマーズ・クラブ 編
学陽書房・刊('94.11)
変形判 262頁、1,648円(税込)

ユギ・ファーマーズ・クラブの正式名称は「由木の農業と自然を育てる会」である。1987年に発足し、多摩ニュータウン19住区開発予定地となっている東京都八王子市で、代々酪農や養蚕を営んでいる農家、生活している住民、周辺の市街地に住む都市住民が交流しながら、多摩丘陵の豊かな自然を活かした暮らしやすいニュータウンづくりを進めるための活動を行っている市民団体である。

農業たたきが横行する一方で、人間と自然との関連、あるいは歴史や文化の再評価として農業や農村を見直そうとする動きも高まっている。東京というコンクリート砂漠に住む市民が一時でもそれに触れ、心の豊かさを取り戻す場として農地や農業を守り育てていくことの重要性を訴えたいとの願いはあるだろう。

本書は、こうした中でその存在意義が高まるであろうユギ・ファーマーズ・クラブについて、これまでの活動の展開過程をまとめたものである。(K.T.)

UP TO DATE

◆研究助成は51件、1億8,270万円

助成対象リスト等については、P4以下を参照のこと。また、助成対象の概要を掲載した冊子「研究助成選考経過および助成対象」を郵送料(190円分切手)にて提供している。詳細については、トヨタ財団研究助成係まで。

◆市民活動助成は9件、1,700万円

助成対象リスト等については、P7を参照のこと。また、助成対象概要を掲載した冊子「市民活動助成選後評・助成対象一覧」を郵送料(130円分切手)にて提供している。詳細については、トヨタ財団市民活動助成係まで。

◆国際助成は、94件、9,547万円

助成対象リスト等については、P8以下を参照のこと。また、インドネシア若手研究助成についても、64件1,217万円の助成を決定した。

「隣プロ」翻訳出版促進助成は、日本向けおよびアジア相互間を含め23件、3,145万円。

また、国際助成、インドネシア若手研究助成、「隣プロ」翻訳出版促進助成の助成対象を全て掲載した冊子「助成対象一覧」を郵送料(190円分切手)にて提供している。詳細については、トヨタ財団国際助成係まで。

◆その他の助成

「計画助成」の助成対象として12件、

2,708万円が決定。また、「成果発表助成」対象6件の報告・承認も第72回理事会で行われた。

◆「チャンパ王国の遺跡と文化展」の開催

標記写真展・講演会を名古屋、福岡、広島にて実施した。詳細については、P1に掲載のとおりである。今後の予定として、来春には東京、大阪にて開催予定である。

日程は以下のとおり。

〈東京展〉	1月12日(木) ～28日(土) 赤坂ツインタワー1階 国際交流フォーラム
〈大阪展〉	2月14日(火) ～26日(日) 大阪国際交流センター

また、この設立20周年を記念した展覧会カタログ「チャンパ王国の遺跡と文化展」を作成した。希望者は、合計2,380円分(定価2,000円、送料380円)の切手を同封の上、トヨタ財団カタログ係まで封書にて申し込みのこと。

◆設立20周年記念国際シンポジウムをタイ、ヴェトナムにて開催

去る11月15、16日、ノンカイ(タイ)において、11月24日から26日までハノイ(ヴェトナム)において、それぞれ「Thailand in Cultural Change」「Social and Cultural Development in the Content of Economics

Growth In Asia」と題した標記シンポジウムを開催した。

また、来年1月には東京にて国際シンポジウム「21世紀アジア太平洋の「文化」の課題ー「国際文化協力」を考えるー」を予定。

◆財団の新プログラム・スタッフに本多氏

11月より、本多史朗氏(前外務省専門調査員(在フィリピン日本大使館))が新たにトヨタ財団プログラム・オフィサーとして加わった。

また、15年もの

長きにわたり当財団プログラム・オフィサーとして活躍してきた若山佳子氏は10月末日をもって退職した。



都心の窓から

さて、今年度も公募の助成プログラムの選考が無事終了、とりあえずはホッとできるはずなのですが、今年に限っては少し状況が違います。

来年早々の財団設立20周年を記念した国際シンポジウムの準備に追われているからです。

「長嶋巨人の経済効果」とかいわれているようですが、暗い世の中のとこそ民間財団の活力が必要なのでしょう。だから忙しいことは喜ばしいこと(?)。ところで、彼の引退の年にトヨタ財団が設立されたことも何かの縁でしょうか。


 トヨタ財団レポート No.70

このレポートを継続してご希望の方は、お葉書にて財団宛お申込みください。

発行日 発行日 1994年12月5日
発行所 財団法人 トヨタ財団
発行人 黒川千万喜
編集者 田中恭一
印刷 真友工芸株式会社